

第2回学校運営協議会 議事録

日時：令和7年10月22日（水） 15：00～17：00

場所：山梨県立都留高等学校 鶴聲ホール

1 開会の言葉

2 学校長挨拶 ～近況報告～

- ・同窓会の協力により日本語指導が必要な生徒にご支援をいただいている。
- ・大月市サマースクール、多くの生徒にボランティアの機会をいただけて感謝している。
- ・オープンスクール300名超の中学生来校。進路希望調査も1倍超えた。CS 委員様からいただいたアドバイスが功を奏した。
- ・よのなか科、つる探は、地域で学ぶ、地域から学ぶという姿勢で学校の軸に据えている。新化、深化、伸化、いろいろな進化があると考えているが、これからも進化させていきながら、学校の肝として地域教育の肝としてとらえていきたい。

3 議事

(1)学校評価アンケート中間報告（事務局）

- ・委員：予習復習について、学校での様子は？

事務局：グループ学習は良く授業でもやっているが、自学については、座力の問題もあるかもしれない。

年次進行でよくなっているかもしれない。学年別の調査結果を精査してみたい。

- ・委員：自分の好きなことには高評価がついているので、心配ないといえるとも思う。
- ・委員：探究活動等を目標に都留高をめざしている生徒も多いと聞く。生徒の様子や他校はどうか。

校長：他校もそれぞれ活動している。諸活動は座学と同じくらい大事。全生徒が興味関心を持っているかは微妙なところもあるが、学校の軸に据えながら、横展開の中心になれるのであれば、地域になくはならない高校になれる。そこを目指していきたい。

- ・委員：上野原では中学生に対して、学びの場を夏休みに提供しているが、地域での学びの場を増やすことを今後考えていきたい。よのなか科の今後の展望は。
- ・校長：よのなか科については、県の加配との絡みもあるという実情はある。生き残りのためには必要だと考えている。地域に選ばれる学校として何ができるか、考えていきたい。
- ・委員：中学校現場としても、地域に根差す教育は必要ととらえている。大月市内の中学校も次年度CSの指定を受けた。市内の中学生は多くが都留高を目指しているが、活動の内容については知らないことも多い。中学校に出向いてプレゼン等してもらいたいことも検討したい。地域を視点として都留高校とつながっていきたい。保護者に向けて、高校卒業後の進路状況も示してもらうことで連携を深めていきたい。
- ・委員：大月駅イベント、地域に向けたイベント、昨年度よりも飛躍的に増えている。つる探、よのなか科、中学生に具体的な活動を出前授業等でお願いしたい。都留高でこれをやりたい、という生徒が増えるといいと思う。現場を見ることは大切。言語聴覚士を希望する教え子が、上條先生の活動からその道を見つけた。進路にもつながり地域にも貢献できるサイクルができるのは素晴らしいと思う。
- ・委員：都留高校がいい学校と思えば生徒は集まる。世間の人には学校のことは良くわからない。いろいろなことを通じて、人間的な触れ合いを少しでも広げて学校の中のいいこと、先生の良さを見せていくことが大切ではないか。
- ・委員：つる探が大きな土台となっている。ランドセルもそうだが、ポロシャツの導入等、つる探は楽しくいろいろなことができる、そこをPRするのが良いのでは。そのために都留高校に入学する、勉強する、そうなれば良いと思う。
頭髪検査について生徒からの記述があるが、どのようにやっているのか。基準とかはどうなっている？
- 校長：定期的に行事の前等を実施している。長さや染め等、一律全体で見ている。
- ・委員：つる探の実践結果等を踏まえれば、都留高の生徒には必要ないのでは。先生方が生徒への信頼を重視すれば、検査等もいらなくなると思う。そういうところを目指すべきでは。
- ・委員：部活動について、評価が高いことは良いことだ。

(2)学校運営協議会による学校行事への参画について（事務局）

- ・委員：医療現場は人材確保が課題。地域を見せると同時に我々の思いを伝えたい。悩んでいる生徒に早い時期に伝えたい。
- ・校長：3月はいろいろな話を聞きやすいタイミング。

・委員：来年度は11月にお願いしたい。今年度はこのあと進めていきたい。

4 連絡事項

(1)次回の予定：第3回 学校運営協議会 2月12日（木）

(2)その他

5 情報交換、懇談（各委員の方から）

・地域で子供たちを育てる一方、教員の働き方改革についても考える場を設けてもよい。

・中学校の職場体験、生徒が自分で選んで、自分で申し込む。学校の手から離れるシステムが構築しつつある。

先生の手は離れるが行事としては続いている。生徒も主体性が養われる。高校も変わるべきでは。

6 閉会の言葉